

◇「企業の社会的責任(CSR)」

東ト協副会長 長井 純一〔港支部 長井運送株〕

先日、企業の社会的責任というタイトルでホームページを作成した。

内容は、事故防止・環境・雇用という3テーマである。亡父の会社の経営方針をそのまま引き継ぎ、その偉業を讃えた文章にした。

たまたま、弟が、海外に拠点を置く国際通信社(IPS)との関わりがあり、海外からも閲覧できるように英語とドイツ語でそのホームページを紹介したところ、アメリカ・オーストラリア・イギリス・ドイツから反響があった。

特に、全欧州引越し業組合から興味深い質問が寄せられた。

「運賃のダンピングが横行しているが、日本はどうかか」、「燃料価格が高騰しているが、日本はどうかか」という質問だが、「日本もヨーロッパも同様な悩みがあるのですね」と答えた。

全欧州引越し業組合の総裁がイタリア・トスカーナの元貴族で広大な土地にブドウ畑を持ち、大きなワイナリーを併設したホテルを持っている。是非来てほしいとの依頼があり、来年ツアーを組んで行きたいと思っている。たまたま、英語・ドイツ語で紹介しただけで、このような大きな繋がりになっていくことが不思議である。

先月、東ト協環境部長の遠藤氏が、タイのバンコクで開かれたアジアEST地域フォーラムにおいて、グリーンエコプロジェクトの取り組みを発表した。

ここにIPSの特派員を派遣し、内容を取材した。記事のタイトルが、“Paper & Pencil Project”となっており、面白い英訳だと思った。紙と鉛筆で出来る、ハイテク機器を使わない取り組みが評価された。これにも早速反響があり、フィリピンの女性記者より遠藤部長に問い合わせがあった。

このような素晴らしいプロジェクトを日本国内はもとより、全世界に拡げていきたいと考えている。

◇「埼玉協シンクタンク委員会」

総務委員長 松本 有司〔台東支部 金方堂運輸株〕

8月18日埼玉県トラック協会の横塚会長にお声を掛けて頂き、埼玉協シンクタンク委員会が主催するマネジメントスクールにて経営戦略のお話をしました。

物流経営士課程の講義でも流通経済大学の授業に於いても何時も感じることは参加者の真剣なまなざしであります。何れの講座も何故か午後一番の時間帯ですが、居眠りどころか食い入るその様相を拝見しますと、こんなに真面目な業界の地位が低いとの発言には異論を唱えざるを得ません。経営戦略と申しましても自らがロジ研で習った戦略会計の必要性など、社会奉仕ならぬ業界奉仕活動の一念で行なわせて頂いて居りますが、今回のマネジメントスクールに於いては過去10年間の膨大な活動報告書を頂戴し、名ばかりの講師が逆に学ばせて頂くばかりでありました。

埼玉県の物流動線の変容、潮流の変化、年毎の重点課題、挙げたら切りがありませんが物事の成り得た背景や裏付けなどを熟考し、全体が進むべき方向性の啓蒙など、ただただ脱帽であります。

本紙面を借用して横塚会長、桶本シンクタンク委員会会長、専務理事をはじめとする埼玉協事務局の皆様は厚く御礼を申し上げます。

◇お知らせ《○ロジ研行事予定》

○9/27(月) 15:00～三組織連絡会 東ト総合会館6小

○10/6(水) 16:00～正副本部長会

17:00～幹事会

○10/23(土)～25(月)温故創新セミナー 旅順・瀋陽等

◇「温故創新 第三章 明治の男に学ぶ」

飯島 光幸〔新宿支部 (有)トーワ・デリバリー〕

我が国は明治という近代日本の草創期、世界史上例のない短期発展をした。

経済、軍事力、教育と、挙国一致で突き進んだそんな時代背景に学ぶべく、平成20年(第一章)には近代経済の礎「渋沢栄一翁」に学び、平成21年(第二章)では、日露戦争の英雄松山生まれの秋山兄弟を知るべく四国松山を訪ねた。

国家予算一億数千万の中、実に予算四億(実際には十五億円・戦死十二万人)をかけた「日露戦争」負ければ北海道や対馬はとられ、属邦になり佐世保や横須賀は露国の大軍港となる。憲法は停止され神社やお寺は叩き壊され、ギリシャ正教のねぎ坊主が建つだろう、そして働けど働けど貧困は続くだろう。そんな十に一つも勝ち目がない戦に民族の誇りと威信をかけて踏み切った。

結果は神風と共に大和民族の大勝利となる。そして今回は、平成22年(第三章)結びとして、日露戦争の足跡を、大連・旅順・二百三高地へ訪ね、男達の血心に迫ってみたい。

旅順港閉塞作戦 軍神「広瀬中佐」

連合艦隊は、旅順港に停泊中の露軍艦隊を撃滅すべく近海にて停泊し、誘いだそうとしたが砲台射程距離より出ず、秋山参謀は作戦を変更する、決死隊を募り、ボロ船を3～4隻港口へ沈め艦隊を閉塞する作戦である。広瀬中佐以下数名がこの任務につき、成功するかに見えたが、部下の姿が見えない事に気付く中佐は艦内へ戻る。故に敵弾に斃れ、戦死する。

二百三高地(爾靈山)数万の屍

旅順港を見下ろすこの名もなきはげ山をとるため無謀な突撃を繰り返し、実に一万七千人の尊い命を失った。後に、児玉源太郎参謀長の発案により、東京湾防衛を目的とする大高射砲を取り寄せ勝利する。

まとめとして

日露戦争の英雄という、乃木大将と東郷元帥、を思い浮かべる。

しかしその陰には幾万の尊い命を失った英霊を忘れてはいけない。彼らは飢えや恐怖を乗り越えひたすら純粋に家族の為、祖国の為、その命を捧げた。その辛く、悲しい、決断を下した作戦と命令を行う指揮官の心情を知る時、私達も少し経営者として学ぶことを得ると思う。

◇「航空会社と我々業界の違い?公共性??」

先日、暑さの為に体調を崩していた友人から「一杯飲まない?」とのお誘いが有った。

彼は同業の飲み友達であり、大型車を30台ほど保有し会社を運営している。

久しぶりの事も有り、暑さも手伝いお互いビールジョッキの杯数を自然とかさねる。円高だから海外でも行くか?との雑談も進み、そこから航空燃料税の50%免税の話題に発展した。

友人曰く「JOLは問題当時に潰すべきであって、税金を投入してから今になって更生法をかけている。航空会社は燃料サーチャージを利用客に請求している訳で、今回の減税措置は航空会社全社とは言え、JA○に視点を置いた国からの露骨な経営支援だと思わないか?」と言う。

なるほどと思いつつ「国内航空会社は独占に近い状態で公共性が有り、再建存続は必至と判断したのだろうか?」と答えると。

彼は「考えても見ろよ、規制緩和は航空会社も我々業界も一緒に有り、当然、新規参入を含め、経営が苦しいのは一緒じゃないか」「それとも我々業界は公共性が薄いと言っても認識されていると言うのか?」と続き、更に「暫定税率を見ろよ。期限付きも含め、いつの間にか名目が変わってしまったのだぞ、それも暫定税率撤廃を公約に掲げていた現政権与党の決定でね」・・・久しぶりで酒のせいもあるが、何時になく雄弁で至極御尤もな話でもある。

私も友人同様、去年の衆院選には保守支持の意味合いもあって自民党を支持していた。話題は民主党総裁選に移ったとき、「どちらになろうが期待は出来ない。ココはキミが払ってくれ、次は俺が払う」と席を立った。(おいおい病み上がりじゃないのか?...)と苦笑しつつも久しぶりでは仕方がない・・・友人に託して「今夜は遅くなる」と自宅に電話を入れた。

by ロジ裏研ノ介